

鹿児島国際大学看護学部看護学科 審査意見（6月）

資料目次

資料1	養成する人材像と3ポリシーの相関	2
資料2	看護学部看護学科カリキュラムマップ	3
資料3	看護学部看護学科開設科目一覧	4
資料4	シラバス	5

■養成する人材像と3ポリシーの相関

人材養成像

いのちをとうとび、はぐくみ、つなぐことを基本姿勢とし、

人々が地域において健康的な暮らしを営めるように、

よりよい健康課題の解決法を探究しつつ取り組むことができる看護職

ディプロマ・ポリシー

【総合的な看護実践能力】

DP1:いのちについて多角的にとらえ検討して説明できる。

DP2:対象を地域で暮らす人として全人的にとらえて説明できる。

DP3:様々な健康レベルにある対象の生活・健康状態を根拠に基づいて判断する能力が身についている。

DP4:対象から信頼される関係を築くことができる。

DP5:対象の健康課題を解決する能力が身についている。

DP6:対象の尊厳を護る態度が身についている。

DP7:地域包括ケアチームにおいて**保健師と看護師の役割を統合した看護の専門性を発揮し、協働できる能力**が身についている。

DP8:よりよい看護実践に意欲と関心をもち、グローバルな視点を基に探究し続ける姿勢が身についている。

DP9:その人らしい地域での暮らしを支えることができる。

DP10:生活に密着した予防活動を行うことができる。

DP11:健康課題の解決を手助け、支援することができる。

DP12:生活機能の回復・維持を手助け、支援することができる。

DP13:健康的な生活をチームで支えることができる。

DP14:国際・地域社会のニーズの変化に対応し、生涯を通して自己を高めることができる。

カリキュラム・ポリシー

【カリキュラム編成の基本的考え方】

CP1:人材養成像を基に、**保健師と看護師の役割を統合して果たせる看護職を養成するためのカリキュラムの主要概念を「いのち」「人間」「暮らし」「健康」「看護」とし、教育科目を設定する。**

CP2:全開設科目を、看護構想、看護実践コア、看護実践能力育成、**看護探究**の科目群に分類し、体系的に編成する。

CP3:1~2年次には、キャリア教育を含む幅広い総合的な内容からなる共通教育科目とともに、主要概念に基づく看護構想科目群を主体的に学び、豊かな人間性を有する自律した医療人としての基礎を育む構成とする。

CP4:学生が看護職としての専門性を築きつつ、着実に看護実践能力を修得できるように、学生の意欲・関心を起点とし、それらを拡大発展できるように授業科目を配置する。

CP5:初年次から、「生活機能援助論」を開講し、看護への関心を専門職としての知識・スキル・態度の修得に方向づけ、主体的な学習態度を修得できるように配置する。

CP6:「生活機能援助論」は、基礎看護技術と専門領域の技術を統合して教授する。そして、対象の健康状態や出現症状を適切にアセスメントし、援助技術を考案・実施・評価することにより、どのような場においても対象に必要な援助を自ら判断し提供できる看護実践能力を育む構成とする。

CP7:看護実践能力育成科目群は、**保健師と看護師の役割を統合して果たせる実践能力を育成するために**、対象の健康レベルを枠組みとして、健康な人を対象とする健康増進看護、健康障害を有する人を対象とする健康回復看護、さらに長期療養を必要とする人を対象とする長期療養生活看護として編成する。また、多職種とのチームケア能力を育むために他学部学生と学ぶ時間を設けた地域包括チームケア論や災害支援論などの発展科目も配置する。

CP8:実習では、最初に「既修得理論・技術」の学習の時間を設ける。また、実習後には、実習内容を整理・統合する「実践と理論の統合」の時間を設け、看護の役割の明確化と自覚を高めるとともに、自身の看護実践を説明可能なものできるように構成する。

CP9:初年次から、多文化について学び国際的視野を養うとともに、「暮らし探索フィールドワーク」等により人々の地域での暮らしに関心をもち、社会に貢献する看護を様々な視点から探究する「卒業研究」に発展できるように編成する。

アドミッション・ポリシー

AP1:看護学を学ぶ上で必要な基礎学力及び対人関係能力を有する人。

AP2:身近な問題を多角的・論理的に考え、説明できる人。

AP3:自身の体験したことを振り返り、他者が理解できるように説明できる人。

AP4:いのちをとうとび、はぐくみ、つなぐことに興味をもち、これを専門的に学ぶことに意欲のある人。

AP5:看護に必要な知識、スキル、態度を身につけることに熱心で、それらを発展させる意欲のある人。

AP6:地域に愛着をもち、地域のよりよい医療看護の発展に貢献したい意欲のある人。

【人材養成像】いのちをとうとび、はぐくみ、つなぐことを基本姿勢とし、人々が地域において健康的な暮らしを営めるように、よりよい健康課題の解決法を探究しつつ取り組むことができる看護職

カリキュラム・ポリシー	主要概念	科目群	1年次		2年次		3年次		4年次		ディプロマ・ポリシー
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
<p>CP9 初年次から、多文化について学び国際的視野を養うとともに、「暮らし探索フィールドワーク」等により人々の地域での暮らしに関心をもてるようにし、社会に貢献する看護を様々な視点から探究する「卒業研究」に発展できるように編成します。</p> <p>CP8 実習では、最初に「既修得理論・技術」の学習の時間を設けます。また、実習後には、実習内容を整理・統合する「実践と理論の統合」の時間を設け、看護の役割の明確化と自覚を高めるとともに、自身の看護実践を説明可能なものとできるように構成します。</p> <p>CP7 看護実践能力育成科目群は、保健師と看護師の役割を統合して果たせる実践能力を育成するために、対象の健康レベルを枠組みとして、健康な人を対象とする健康増進看護、健康障害を有する人を対象とする健康回復看護、さらに長期療養を必要とする人を対象とする長期療養生活看護として編成します。また、多職種とのチームケア能力を育むために他学部学生と学ぶ時間を設けた地域包括チームケア論や災害支援論などの発展科目も配置します。</p> <p>CP6 「生活機能援助論」は、基礎看護技術と専門領域の技術を統合して教授します。そして、対象の健康状態や出現症状を適切にアセスメントし、援助技術を考案・実施・評価することにより、どのような場においても対象に必要な援助を自ら判断し提供できる看護実践能力を育む構成とします。</p> <p>CP5 初年次から、「生活機能援助論」を開講し、看護への関心を専門職としての知識・スキル・態度の修得に方向づけ、主体的な学習態度を修得できるように配置します。</p> <p>CP4 学生が看護職としての専門性を築きつつ、着実に看護実践能力を修得できるように、学生の意欲・関心を起点とし、それらを拡大発展できるように授業科目を配置します。</p> <p>CP3 1～2年次には、キャリア教育を含む幅広い総合的な内容からなる共通教育科目とともに、主要概念に基づく看護構想科目群を主体的に学び、豊かな人間性を有する自律した医療人としての基礎を育む構成とします。</p> <p>CP2 全開設科目を、看護構想、看護実践コア、看護実践能力育成、看護探究の科目群に分類し、体系的に編成します。</p> <p>CP1 人材養成像を基に、保健師と看護師の役割を統合して果たせる看護職を養成するためのカリキュラムの主要概念を「いのち」「人間」「暮らし」「健康」「看護」とし、教育科目を設定します。</p>	看護探究科目	<p>共通教育科目 新入生ゼミナール</p> <p>共通教育科目(再掲) 【人間教養科目】 日本文学 外国文学 音楽文化論 日本史 西洋史 東洋史 東西文化の交流 地域創生 I・II Japanology 地域から世界へ かごしま発展プログラム かごしまフィールドスケール 海外インターンシップ</p> <p>【コミュニケーションスキルズ科目】 英語オーラル・コミュニケーション I・II 英語海外研修 英語リーディング 英語ライティング 英文読解の技法 Global Economy and Business 基礎中国語 I・II 基礎フランス語 I・II 基礎ドイツ語 I・II 基礎韓国語 I・II 韓国語海外研修</p> <p>暮らし探索 フィールドワーク</p> <p>専門基礎科目(再掲) 地域社会論(前) まちづくり概論(前) 地域経済論 環境経済論 I(前) 環境経済論 II 文化人類学(前) 日本史特論 鹿児島県の歴史(前)</p> <p>健康増進看護総論 I (再掲) * (2) 看護学概論(再掲) * (2)</p> <p>看護研究</p> <p>健康増進ケア論 III (再掲) * (2) 健康増進ケア論 IV (再掲) * (2)</p>	看護実践能力育成科目	<p>成人健康回復ケア論 II 成人健康回復ケア論 老年健康回復ケア論 精神健康回復ケア論 在宅健康回復ケア論</p> <p>成人健康回復ケア論 成人老年健康回復ケア論 精神・在宅健康回復ケア論</p> <p>健康回復過程論 I 急性・回復期・治療過程における看護 III 人生最期のとき・外来通院 II リハビリ期・慢性期の看護 Ⅳ 在宅看護</p> <p>健康回復看護総論 健康回復看護総論実習</p> <p>健康増進看護総論 I 地域保健 II 成人保健 III 成人老年保健 IV 精神保健</p> <p>健康増進ケア論 I 地域保健看護活動の基礎 II 対象の発達段階に応じた地域看護活動 III 健康課題の特性に応じた地域看護活動 IV 学校・産業保健活動</p> <p>成人健康回復ケア論実習 I 成人健康回復ケア論実習 II 成人健康回復ケア論実習 老年健康回復ケア論実習 精神健康回復ケア論実習</p> <p>健康増進ケア論実習 在宅健康回復ケア論実習</p> <p>成人健康回復ケア論実習 老年健康回復ケア論実習 精神健康回復ケア論実習</p> <p>健康増進ケア論実習 在宅健康回復ケア論実習</p>	看護実践コア科目	<p>生活機能援助論 I:安全をまもる機能 II:生きるを支える機能 III:食物・水分摂取を支える機能 IV:排便・排尿を支える機能 V:動くを支える機能 VI:休むと情報交換を支える機能 VII:子どもを産み育てることを支える機能 VIII:救命救急・診療の補助 IX:在宅展開・事例展開</p> <p>看護学概論 援助関係論</p> <p>看護への招待 いのちと看護</p> <p>家族看護論 看護倫理</p> <p>暮らしと看護 健康と看護</p> <p>看護展開基礎論 看護展開基礎実習</p> <p>看護学概論 援助関係論</p> <p>看護への招待 いのちと看護</p> <p>家族看護論 看護倫理</p> <p>暮らしと看護 健康と看護</p>	看護構想科目	<p>からだの仕組みと働き I 体の仕組みと働き II 代謝と栄養 からだの異常と発生メカニズム 感染と防御 からだの異常の診断技術 働く人の健康</p> <p>薬理学 保健統計学 疫学 健康をまもる法律 保健医療福祉行政論 健康障害とその治療 I 健康障害とその治療 II 健康障害とその治療 III</p> <p>健康障害とその治療 IV 医療情報活用論 暮らしをまもる制度 生涯発達論</p> <p>共通教育科目 【スポーツ・健康科目】 講義(2) 現代社会とスポーツ 等 実習(5) スポーツ実習 I～V 【基礎科目】 数理・データサイエンス・AI(3) 情報処理等 キャリアデザイン(2) 論理的思考と数的処理等 【人間教養科目】 社会科学(6) 日本国憲法 等 自然科学(2) 数学 I・II 地域志向(6) 地域から世界へ 等 【基礎科目】キャリアデザイン(5) コミュニケーション力育成 等 【人間教養科目】人文科学(10) 日本文学 等 【人間教養科目】地域志向(3) 地域創生 I・II 等 【コミュニケーションスキルズ科目】英語(8) 英語オーラル・コミュニケーション I・II 等 【コミュニケーションスキルズ科目】第二外国語(8) 基礎中国語 I・II 等 【人間教養科目】自然科学(2) 生命科学 環境科学</p> <p>いのちをはぐくむ地球 地球で生きるいのち</p>	<p>卒業研究 I</p> <p>卒業研究 II</p> <p>看護管理論</p> <p>看護総合演習</p> <p>地域包括チームケア論 災害支援論 長期療養生活看護総論</p> <p>長期療養生活ケア論</p> <p>健康増進ケア論実習 在宅健康回復ケア論実習 成人健康回復ケア論実習 老年健康回復ケア論実習 精神健康回復ケア論実習</p> <p>健康増進ケア論実習 在宅健康回復ケア論実習</p> <p>成人健康回復ケア論実習 老年健康回復ケア論実習 精神健康回復ケア論実習</p> <p>健康増進ケア論実習 在宅健康回復ケア論実習</p>	<p>DP8(関心・意欲・態度) よりよい看護実践に意欲と関心をもち、グローバルな視点を基に探究し続ける姿勢が身についている。</p> <p>DP7(関心・意欲・態度) 地域包括ケアチームにおいて保健師と看護師の役割を統合した看護の専門性を発揮し、協働できる能力が身についている。</p> <p>DP6(関心・意欲・態度) 対象の尊厳を護る態度が身についている。</p> <p>DP5(思考・判断・表現) 対象の健康課題を解決する能力が身についている。</p> <p>DP4(思考・判断・表現) 対象から信頼される関係を築くことができる。</p> <p>DP3(思考・判断・表現) 様々な健康レベルにある対象の生活・健康状態を根拠に基づいて判断する能力が身についている。</p> <p>DP2(知識・技能) 対象を地域で暮らし人として全人的にとらえて説明できる。</p> <p>DP1(知識・技能) いのちについて多角的にとらえ検討して説明できる。</p>	<p>【総合的な看護実践能力】</p> <p>DP9 その人らしい地域での暮らしを支えることができる。</p> <p>DP10 生活に密着した予防活動を行うことができる。</p> <p>DP11 健康課題の解決を手助け、支援することができる。</p> <p>DP12 生活機能の回復・維持を手助け、支援することができる。</p> <p>DP13 健康的な生活をチームで支えることができる。</p> <p>DP14 国際・地域社会のニーズの変化に対応し、生涯を通して自己を高めることができる。</p>

アドミッション・ポリシー

(知識・技能)
AP1 看護学を学ぶ上で必要な基礎学力及び対人関係能力を有する人。
(思考力・判断力・表現力)
AP2 身近な問題を多角的・論理的に考え、説明できる人。
AP3 自身の体験したことを振り返り、他者が理解できるように説明できる人。

(関心・意欲・態度)
AP4 いのちをとうとび、はぐくみ、つなぐことに関心をもち、これを専門的に学ぶことに意欲のある人。
AP5 看護に必要な知識、スキル、態度を身につけることに熱心で、それらを発展させる意欲のある人。
AP6 地域に愛着をもち、地域のよりよい医療看護の発展に貢献したい意欲のある人。

授業科目名	健康増進看護総論Ⅰ：地域保健	開講学期・単位	後期1単位	配当年次	1年次										
担当者名	塩満智子、小玉博子、稲留直子														
ナンバリングコード	B_NUR204929														
使用言語	日本語で行う授業														
授業形態	講義・演習														
授業のテーマと概要															
<授業のテーマ>	地域を基盤に展開する看護の基本を学ぶ														
<授業の概要及び方法>															
<p>(概要)多様な発達段階や健康レベルの人々が暮らす地域において、家庭や地域を基盤に実施してきた公衆衛生看護実践及び訪問看護実践を概説し、人々の健康生活を支える看護職の役割機能と基盤となる考え方について総体的な理解を深める。健康課題を抱えつつ自己管理を継続している人々や、ケアを受けながら生活している人々が、その人らしく地域で暮らし続けることができるよう支えるための看護における基本的な考え方と看護活動方法の原則を学ぶ。 (オムニバス方式・共同(一部)/全15回) (塩満智子/6回) 地域看護の理念と基本、役割、倫理、及び地域看護の対象(個人/家族、地区/小地域、地域組織、自治体等)の特性や捉え方について学ぶ。保健師活動の歴史的発展経緯を学ぶ。在宅療養を支える看護も含め、地域全体で健康を支える仕組みであるヘルスケアシステムにおける看護職の役割・機能について学ぶ。 地域看護が対象とする人々の生活と健康課題の捉え方、地域看護活動の基本的考え方について学ぶ。地域全体の健康を支えるヘルスプロモーションの考え方、地域づくりの方法について学ぶ。 (稲留直子/2回) 国際保健の発展とWHOをはじめとする国際的な保健医療機関の役割・活動を踏まえ、国や地域間にもみられる健康水準や保健医療サービスの現状から、地球規模の保健医療に関する課題の解決に向けたグローバル・ヘルスの概念について学ぶ。他国における「地域を基盤とした看護」の歴史や各国のヘルスケアシステムの現状についてグループディスカッションを交えて学ぶ。 (小玉博子/5回) 医療や看護、介護を受けながら地域で暮らす対象の生活を理解し、生活の場に応じた在宅看護の特徴と看護の役割について学ぶ。在宅療養者の健康生活を支えるヘルスケアシステムについて、在宅看護が提供される場とその拡大の背景にある現在の社会状況を理解し、療養者・家族を支える地域包括ケアシステム、在宅ケアを支える機関・システム・制度について学ぶ。 (塩満智子・小玉博子/2回)(共同) 看護の基本的考え方として、家族を単位とした援助について、事例演習により学ぶ。</p>															
<キーワード>															
地域看護学 公衆衛生看護学 地域づくり ヘルスケアシステム 地域包括ケアシステム 在宅看護															
授業の到達目標※		DP(ディプロマ・ポリシー)													
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	地域全体を対象とした地域看護の目的を理解する。	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	国・地域における看護の基本的な考え方を理解する。	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
3	個人・家族・地域生活集団を対象とした看護活動方法の特徴を理解する。	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
4	人々の健康生活を支えるヘルスケアシステムの成り立ちを理解する。		○			○				○	○	○	○	○	○
5	ヘルスケアシステムの中で機能する看護の役割を理解する。					○				○	○	○	○	○	○
授 業 内 容															
	1. 地域を基盤とした看護活動の目的と活動方法・活動体制の特徴(講義)	塩満													
	2. 地域を基盤とした看護の目標 人々の社会生活を豊かにする、自立・自己実現を支える 人々の主体性・問題解決能力を高めることの必要性・意義	塩満													
	3. 地域看護の基本的な考え方1 生活の営みに即した援助①(講義) 人間の生活と健康 地域で暮らす人々の理解 家族・コミュニティーの理解	塩満													
	4. 地域看護の基本的な考え方2 生活の営みに即した援助②(講義) 地域で暮らす人々の理解 在宅療養者の生活の理解	塩満													
	5. 地域看護の基本的な考え方3 予防の概念と看護が行う予防活動(講義)	塩満													

授業計画	6. 地域看護の基本的な考え方4 家族を単位とした援助の理解① 事例演習(講義・演習)	塩満・小玉					
	7. 地域看護の基本的な考え方5 家族を単位とした援助の理解②(演習・講義)	塩満・小玉					
	8. 地区活動の目的:地区活動で目指すもの、活動対象の捉え方、地区活動のプロセス	小玉					
	9. 地区活動と地域づくり ヘルスプロモーションの概念(演習と講義)	小玉					
	10. 地域を基盤にした看護の歴史とヘルスケアシステムの変遷1:国際機関やODAの仕組みと役割	稲留					
	11. 地域を基盤にした看護の歴史とヘルスケアシステムの変遷2:国際保健からグローバル・ヘルスへの発展	稲留					
	12. 地域を基盤にした看護の歴史とヘルスケアシステムの変遷3:国内における在宅療養を支えるしくみ・訪問看護の発展	塩満					
	13. ヘルスケアシステムの中で機能する看護① 多職種・多機関連携	小玉					
	14. ヘルスケアシステムの中で機能する看護② 人々のニーズに即したケア体制構築	小玉					
	15. ヘルスケアシステムの中で機能する看護③ 地域包括ケアシステムにおける看護の役割	小玉					
16. 定期試験	塩満・小玉						
予習・授業復習	毎回、前回までの講義内容を基にした発展的内容を講義するので、それまでの学習内容を整理し、着実に理解して、講義に臨んでください。						
使用教材など	最新公衆衛生看護学 第3版 総論、日本看護協会出版会						
評価方法	設定した授業の到達目標※	1	2	3	4	5	評価割合(%)
定期試験		○	○	○	○	○	40
小テスト		○	○	○	○	○	20
レポート		○	○	○	○	○	
実技試験							
グループワークの取り組み		○	○	○	○	○	10
授業への参加度		○	○	○	○	○	10
その他()							
履修時上の外留の意対事項	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワー等については初回授業で説明します。 ・定期試験の受験資格は、3分の2以上の出席とします。但し欠席届の提出により正当な理由と判断した場合には、考慮を検討します。 ・遅刻は授業への参加度における減点対象とします。正当な理由のない20分以上の遅刻は、欠席扱いとします。 ・授業中の退席は、やむを得ない場合を除き、授業への参加度における減点対象とします。 ・授業中の携帯電話機の使用は禁止とします。 ・授業の計画は、受講者の理解度に応じ、適宜変更することがあります。 						
前年度の授業評価							
前年度のFD(授業改善)授業の取り組み状況	期末授業アンケート					公開授業	
令和5年度開講							

授業科目名	健康増進ケア論Ⅰ：地域保健看護活動の基礎	開講学期・単位	前期1単位	配当年次	2年次												
担当者名	米増直美																
ナンバリングコード	B_NUR204929																
使用言語	日本語で行う授業																
授業形態	演習・講義																
授業のテーマと概要																	
<授業のテーマ>	地域看護活動の基礎知識及び技術の理解																
<授業の概要及び方法>																	
<p>(概要)地域で生活する個人/家族、生活基盤としての地区/小地域、地域の住民組織/地域組織への支援に必要な基本的知識・技術について学ぶ。地域の人々の健康やQOLの維持向上を目指して展開される個別支援の方法と、小集団や一定地域等のコミュニティ全体を対象とした地区活動の基本的な実践プロセスを学ぶ。個別支援の方法では、地域で暮らす人の生活全体を捉え、支援する方法、地区活動においては、顕在・潜在する健康課題を、地区踏査、地域の文化や価値観などを踏まえつつ、アセスメントし、地域の課題として整理する地区診断の方法を学ぶとともに、それらの課題への支援計画、及び活動評価を行う一連の地域看護活動の展開のプロセスを、地区活動の手段として行う健康教育の実践プロセスを通して学ぶ。海外における地域づくり活動の事例を通して、国や地域間の実情を踏まえた地区診断及び地区活動の方法を学ぶ。</p>																	
<キーワード>																	
個別支援、地区診断、健康教育																	
授業の到達目標※			DP(ディプロマ・ポリシー)														
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
1	地区診断の目的・技術を理解できる。					○	○									○	
2	個別支援のプロセス・技術を理解できる。		○	○	○	○	○				○						
3	健康教育に用いる理論・モデル及び技術を理解できる。											○	○				
4	海外の地区活動理論・モデルを理解できる			○						○							○
5																	
授 業 内 容																	
授 業 計 画	1. 個別支援の方法① 対象の生活を捉える方法(講義)																
	2. 個別支援の方法② 対象の生活を捉えることを体験する(演習)																
	3. 個別支援の方法③ 対象の生活を捉えることを体験する(演習)																
	4. 保健指導とは 教育的対応と相談的対応																
	5. 個別保健指導の方法 保健指導の計画・実施・評価 (演習)																
	6. 地区活動の基本 地区活動の手段としての家庭訪問・健康教育(講義)																
	7. 地区活動の展開方法 地区診断・地区活動計画作成 (講義)																
	8. 地区診断演習① 地区診断のための情報収集1 (演習・講義)																
	9. 地区診断演習② 地区診断のための情報収集2 (演習・講義)																
	10. 地区診断演習③ 地域の健康問題の明確化1 (演習・講義)																
	11. 地区診断演習④ 地域の健康問題の明確化2 (演習・講義)																
	12. 地区診断演習⑤ 地域の健康問題に即した健康教育の計画立案 (演習・講義)																
	13. 地区診断演習⑥ 地域の健康問題に即した健康教育の準備(演習・講義)																
	14. 地区診断演習⑦ 地域の健康問題に即した健康教育の実施・評価(演習・講義)																
	15. 海外における地域づくり活動-Community as Partner Model, Community Action Model等を用いた地区活動(講義・演習)																
	16. 定期試験																
※ 毎回講義終了前に小レポート(質問・意見・感想等)を記入する																	

予習・授業の復習	【予習】事前に配布した資料及び教科書の該当する章に目を通し、授業の概要を把握しておく(毎授業前0.5時間程度)。 【復習】授業の内容を資料及び教科書で再確認しておくこと(毎授業後0.5時間)。 身近な家族・地域における健康課題に対して、自身がどのように個人、集団、地域に対しアプローチできるか考えてみましょう						
	使用教材など 教科書: 1. 最新公衆衛生看護学 第3版 総論、日本看護協会出版会 2. ワークブック 地域・公衆衛生看護活動事例演習、クオリティケア その他: 内容に応じて資料を配布します。						
設定した授業の到達目標※		1	2	3	4	5	評価割合(%)
評価方法							
定期試験		○	○	○			30
小テスト							
レポート		○	○	○			20
実技試験							
グループワークの取り組み		○	○	○			40
授業への参加度		○	○	○			10
その他()							
履修上の留意事項 授業時間外の対応	・オフィス・アワー等については、初回授業のときに説明します。						
	・授業回数の3分の2以上の出席をしていない者には、定期試験の受験資格は認めません。欠席届の提出により正当な理由がある場合には、考慮することもあります。						
	・遅刻は授業への参加度における減点対象とします。正当な理由のない20分以上の遅刻は欠席扱いとします。						
	・授業中の退席はやむを得ない場合を除き、授業への参加度の減点対象とします。 ・上記の授業計画は、受講者の理解度に応じて適宜変更することがあります						
前年度の授業評価							
前年度のFD(授業改善)授業の取り組み状況		期末授業アンケート			公開授業		
令和6年度開講							

授業科目名	健康増進ケア論Ⅲ:健康課題の特性に応じた地域看護活動	開講学期・単位	後期1単位	配当年次	2年次										
担当者名	米増直美、稲留直子、塩満智子														
ナンバリングコード	B_NUR204929														
使用言語	日本語で行う授業														
授業形態	講義・演習														
授業のテーマと概要															
<授業のテーマ>	健康課題の特性に応じたヘルスニーズ及び看護活動の実際と根拠となる関連法規の理解														
<授業の概要及び方法>															
<p>(概要)地域を基盤とした看護活動の基本的考え方及び方法論を中核に、具体的な活動展開の方法を、対象の健康課題の特性に応じた活動から学ぶ。わが国の保健医療福祉介護制度と看護活動の歴史の変遷をふまえて、保健医療福祉介護サービスシステムのサブシステムとして機能する看護職の役割について理解する。すべての人々が住み慣れた地域でQOLの高い暮らしの継続を目指し、社会的変化を把握しながら、多様な専門職や地域住民と協働し、地域診断に基づいた地域の健康水準を高める事業化、施策化、社会資源の開発、システム化を実践していく基本的考え方と方法を学ぶ。また、在日外国人の背景や健康課題を理解し、異文化・多文化を理解することの重要性や感染症、化学汚染、放射能汚染など、国境を越えて人々の健康に重大な影響を及ぼす健康危機における看護活動について学ぶ。演習を通して、高齢者だけでなく障害者も含めた地域包括ケアシステムの有り様を描き、ヘルスケアシステムを整える看護職の役割について検討し、理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)/全15回) (稲留直子/5回)</p> <p>健康課題(精神障害者・健康危機管理)の特性に応じた地域保健活動の実践について、ヘルスニーズの現状に対し、サービス提供システムやその他の社会資源がどのように地域看護活動に活かされているのか、また地域看護活動の根拠となる関連法規を理解する。 (米増直美/4回)</p> <p>健康課題(難病)の特性に応じた地域保健活動の実践について、ヘルスニーズの現状に対し、サービス提供システムやその他の社会資源がどのように地域看護活動に活かされているのか、また地域看護活動の根拠となる関連法規を理解する。 (塩満智子/3回)</p> <p>健康課題(感染症)の特性に応じた地域保健活動の実践について、ヘルスニーズの現状に対し、サービス提供システムやその他の社会資源がどのように地域看護活動に活かされているのか、また地域看護活動の根拠となる関連法規を理解する。 (米増直美・塩満智子・稲留直子/3回)(共同)</p> <p>地域看護の対象である様々な場や個人・集団レベル、ライフサイクルにある人々を包括的に支援する地域包括ケアシステムについて、演習を通して検討する。</p>															
<キーワード>															
精神障害者 難病 感染症 ヘルスニーズ 保健医療福祉介護制度 健康危機管理 地域包括ケアシステム															
授業の到達目標※		DP(ディプロマ・ポリシー)													
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	健康課題別に人々のヘルスニーズの特徴を理解する。		○	○						○					
2	地域保健医療福祉介護に関わる政策・制度を理解する。					○				○					
3	多様な住民のヘルスニーズに対して、既存の保健医療福祉制度を適用させていく看護活動を理解する。					○		○	○	○					
4	既存の制度を発展させ、新たな制度を作り上げていく看護の役割・機能について学ぶ。										○	○			
5	地域包括ケアシステムを整える看護の役割について学ぶ。					○		○			○	○		○	
授 業 内 容															
1. 精神障害者の地域保健医療福祉対策における看護活動① 精神保健医療福祉対策の現状と課題															
2. 精神障害者の地域保健医療福祉対策における看護活動② 精神障害者を地域で支えるための活動、保健師の役割															
3. 精神障害者の地域保健医療福祉対策における看護活動③ 心の健康づくりのための保健福祉対策と保健師の役割															
4. 難病保健医療福祉対策における看護活動① 難病対策の歴史の変遷と現状															
5. 難病保健医療福祉対策における看護活動② 難病患者・家族がかかえる問題の特徴															

授業計画	6. 難病保健医療福祉対策における看護活動③ 難病患者を支援するケアチームづくり、ケア体制づくり
	7. 感染症対策と看護活動① 感染症対策の法制度と歴史の変遷
	8. 感染症対策と看護活動② ハンセン病対策、結核対策の歴史から学ぶ
	9. 感染症対策と看護活動③ HIV、肝炎対策と保健師活動
	10. 在日外国人の健康課題と看護
	11. 健康危機管理における看護職の役割① 国境を越えて人々の健康に重大な影響を及ぼす健康危機における対策
	12. 健康危機管理における看護職の役割② 災害時の保健医療ニーズと保健医療体制、看護職の役割
	13-15. 包括的支援体制の構築と看護職の役割 (演習) 発達段階別・健康課題別のヘルスニーズを総合的に捉え、人々が健康を保持増進しながらその人らしく暮らしていくことができる地域のありようを描く。健康な地域づくりのために必要なヘルスケアシステムは何か、人々の主体的な健康づくりを支援するための看護職の役割は何かを総体的に検討し、包括的支援体制構築について考える。
	16. 定期試験
授業の予習・復習	【予習】事前に配布した資料及び教科書の該当する章に目を通し、授業の概要を把握しておくこと(毎授業前0.5時間程度)。 【復習】授業の内容を資料及び教科書で再確認しておくこと(毎授業後0.5時間)。 身近な地域における保健医療福祉介護の制度にどのようなものがあるか、また、生活する人々とのどのように関わっているかを自身の日常生活を通して考えてみましょう。
使用教材など	教科書:最新公衆衛生看護学 第3版 総論、各論1、日本看護協会出版会 その他:内容に応じて、資料を配布します
評価方法	設定した授業の到達目標※
	1 2 3 4 5 評価割合(%)
定期試験	○ ○ ○ ○ ○ 30
小テスト	
レポート	○ ○ ○ ○ ○ 20
実技試験	
グループワークの取り組み	○ ○ ○ ○ ○ 40
授業への参加度	○ ○ ○ ○ ○ 10
その他()	
授業修上の留意事項	・オフィス・アワー等については、初回授業のときに説明します。 ・授業回数の3分の2以上の出席をしていない者には、定期試験の受験資格は認めません。欠席届の提出により正当な理由がある場合には、考慮することもあります。 ・遅刻は授業への参加度における減点対象とします。正当な理由のない20分以上の遅刻は欠席扱いとします。 ・授業中の退出はやむを得ない場合を除き、授業への参加度の減点対象とします。 ・上記の授業計画は、受講者の理解度に応じて適宜変更することがあります。
前年度の授業評価	
前年度のFD(授業改善)授業の取り組み状況	期末授業アンケート
	公開授業
令和6年度開講	

授業科目名	健康増進ケア論Ⅳ:学校・産業保健活動	開講学期・単位	後期1単位	配当年次	2年次										
担当者名	塩満智子、稲留直子														
ナンバリングコード	B_NUR204929														
使用言語	日本語で行う授業														
授業形態	講義・演習														
授業のテーマと概要															
<授業のテーマ>	活動場所の特性に応じた保健活動の展開を理解する														
<授業の概要及び方法>															
<p>(概要)地域を基盤とした看護活動の基本的考え方及び方法論を中核に、具体的な活動展開の方法を、活動場所の特性に応じた看護実践から学ぶ。学校・産業という場の特性を理解し、それぞれの場における看護の理念、活動展開の特性、職業倫理について学び、それぞれの場での活動を行う看護の役割について探求的に理解する。また、地域特性に応じた活動として、離島・へき地における活動、都市部における活動、海外における保健師活動について学び、地域特性に応じて活動を構築していく方法を理解する。</p> <p>総括では、海外の保健活動も含めて地域を基盤とした看護の考え方をディスカッションにより確認する。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)/全15回)</p> <p>(塩満智子/6回)</p> <p>産業保健の意義と目的、労働衛生に関する法規と管理体制について理解する。そして、現代の産業保健における課題である生活習慣病の予防、メンタルヘルス関連障害の予防、過労防止、職業性疾病予防など、職場における多様な健康支援活動について学ぶ。</p> <p>また、産業保健師をゲストスピーカーとして招き、地域特性に応じた活動:都市部における保健師活動産業保健の実践について学ぶ。</p> <p>(稲留直子/8回)</p> <p>学校保健の場の特性、意義と目的、学校保健関連法規、学習指導要領、養護教諭の役割を理解する。そして、学校保健統計の分析による児童・生徒の健康状態把握の仕方、事故予防について理解するとともに、現代の学校保健における不登校や虐待などの諸課題への対策等について考察する。</p> <p>また、養護教諭をゲストスピーカーとして招き、学校保健活動の実践について学ぶ。</p> <p>さらに、地域特性に応じた活動として、離島・へき地における保健師活動、海外における保健師活動についても学ぶ。</p> <p>(塩満智子・稲留直子/1回)(共同)</p> <p>学習の統合演習</p>															
<キーワード>															
産業保健 学校保健 国際保健															
授業の到達目標※		DP(ディプロマ・ポリシー)													
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	産業保健の意義・目的及び関係法規について理解する。		○					○							
2	労働と健康との関連を理解する。			○		○						○			
3	学校保健の意義・目的及び関係法規について理解する。		○					○							
4	学校における看護専門職の役割と多職種との連携について理解する。			○	○	○		○							
5	地域特性に応じた保健活動の在り方を理解する。		○							○					○
授 業 内 容															
授 業 計 画	1. 産業看護活動の理念と背景 就労の視点からみた人々の健康問題	塩満													
	2. 労働と健康の相互関連性①:労働による健康影響 職業病 作業関連疾患等	塩満													
	3. 労働と健康の相互関連性②:健康による労働への影響 疾病・障害を持ちながら働くことを支える	塩満													
	4. 働く人々の健康を支援する制度	塩満													
	5. 産業保健活動の実践(講義)	ゲストスピーカー													
	6. 学校保健活動の意義と現状	稲留													
	7. 学校における看護専門職の役割と機能	稲留													
	8. 保健管理・安全管理の意義と現状	稲留													
	9. 保健教育の理解① 学校における保健教育 教科保健の進め方(演習・講義)	稲留													

	10. 保健教育の理解② 児童生徒への保健指導と保健教育(演習・講義)	稲留				
	11. 学校保健活動の実際(講義)	ゲストスピーカー				
	12. 地域特性に応じた保健活動① 離島・へき地における保健活動(講義・演習)	稲留				
	13. 地域特性に応じた保健活動② 都市部における保健活動(講義・演習)	塩満				
	14. 地域特性に応じた保健活動③ 海外における保健活動(講義・演習)	稲留				
	15. 学習の統合:国内外の実情を踏まえた看護活動の基本となる考え方と活動の場における発展(グループ演習)	稲留・塩満				
	16. 定期試験	稲留・塩満				
習・業 復の 習予	【予習】事前に配布した資料及び教科書の該当する章に目を通し、授業の概要を把握しておく(毎授業前0.5時間程度)。演習の準備として、自宅での個人ワークを課す場合がある 【復習】授業の内容を資料及び教科書で再確認しておくこと(毎授業後0.5時間)。					
使用 教材 など	教科書:最新公衆衛生看護学 第3版 総論、各論2、日本看護協会出版会 その他:内容に応じて資料を配布します					
設定した授業の到達目標※						
評価方法	1	2	3	4	5	評価割合(%)
定期試験	○	○	○	○	○	30
小テスト						
レポート	○	○	○	○	○	20
実技試験						
グループワークの取り組み	○	○	○	○	○	40
授業への参加度	○	○	○	○	○	10
その他()						
履修 時上 間の 留意 の対 応項	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィス・アワー等については、初回授業のときに説明します。 ・授業回数の3分の2以上の出席をしていない者には、定期試験の受験資格は認めません。欠席届の提出により正当な理由がある場合には、考慮することもあります。 ・授業中の退席はやむを得ない場合を除き、授業への参加度の減点対象とします。 ・上記の授業計画は、受講者の理解度に応じて適宜変更することがあります。 					
前年度の授業評価						
前年度のFD(授業改善)授業の取り組み状況		期末授業アンケート		公開授業		
令和6年度開講						

授業科目名	看護キャリア発達論	開講学期・単位	後期1単位	配当年次	4年次										
担当者名	堤由美子、中馬成子、鳥越郁代														
ナンバリングコード	B_NUR404929														
使用言語	日本語で行う授業														
授業形態	講義・演習														
授業のテーマと概要															
<授業のテーマ>	自身の看護職としてのキャリア発達について、検討・展望する														
<授業の概要及び方法>															
<p>(概要)この科目では、卒業後に社会人として、看護職として、どのような発達過程をたどるとされているのかを理解し、看護職として生涯を通して学び続ける必要性を理解する。そして、国内外で活躍している先輩看護職から、自身の看護職としてのキャリア開発に関する語りを聴講し、国際・地域社会の変化に対応し、自己を高める努力を続けている看護職としての多様な在り方と、地域貢献の仕方があることを理解し、自らのキャリア発達について検討、展望できるようにする。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)/全15回)</p> <p>(堤由美子/5回)</p> <p>キャリア発達の過程を理解し、看護として専門性を発達させることの意義を検討し、生涯にわたる自己研鑽の必要性を理解できるようにする。また、新入期における職場適応過程とその重要性について、研究知見を基に講義し、新入期における職業的・組織的社会化への適切な対応の仕方を検討できるようにする。</p> <p>(中馬成子/2回)</p> <p>看護職のキャリア開発のための卒業後継続教育システム、その現状や課題についても学び、自身のキャリア開発について検討できるようにする。</p> <p>(鳥越郁代/3回)</p> <p>諸外国(イギリス、オーストラリア、アメリカ)における看護職の役割、またキャリア開発のための教育システムの現状について学び、看護職の活躍の場の多様性を理解し、自身のキャリア開発について検討できるようにする。</p> <p>(堤由美子・鳥越郁代/5回)(共同)</p> <p>国内外で活躍する先輩看護師のキャリア開発に関する語りを傾聴し、自身の卒業後のキャリア開発について検討できるようにする。</p> <p>(予定しているゲストスピーカー:専門看護師、JNP、認定看護師、ジェネラリスト、看護管理者、海外や離島などで活躍する看護職など)</p>															
<キーワード>															
キャリア発達、新入期の職場適応、卒業後継続教育システム、スペシャリスト、ジェネラリスト															
授業の到達目標※		DP(ディプロマ・ポリシー)													
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	看護職としての発達過程を理解する。								○						○
2	看護職の新入期における職場適応の仕方について理解する。								○						○
3	看護職のキャリア開発のための卒業後教育システムの現状と課題について理解する。								○						○
4	先輩看護師の様々なキャリア開発の語りを積極的姿勢により傾聴し、自己と関連づけながら検討できる。								○						○
5	自身の看護の質向上のために自己研鑽を行う必要性を理解することができる。								○						○
6	グローバルな視点を基に、自己のキャリア開発に関する展望をもつことができる。								○						○
授 業 内 容															
授 業 計 画	第1回 看護職としてのキャリア開発と自己研鑽														
	第2回 新入期における職業的・組織的社会化のプロセスとその対応														
	第3回 看護職のキャリア開発のための卒業後継続教育システムの考え方														
	第4回 看護職のキャリア開発のための卒業後継続教育システムの現状と課題														
	第5回 <u>イギリスにおける看護職の役割と教育システムの現状</u>														

	<p>第6回 オーストラリアにおける看護職の役割と教育システムの現状</p> <p>第7回 アメリカにおける看護職の役割と教育システムの現状</p> <p>第8回 グループ学習:看護職のキャリア開発の現状(制度と資源)と課題の探究①</p> <p>第9回 グループ学習:看護職のキャリア開発の現状(制度と資源)と課題の探究②まとめとプレゼンテーション準備</p> <p>第10回 看護職のキャリア開発の現状(制度化とその他)と課題の探究成果の発表と全体討議</p> <p>第11回 私のキャリア開発の歩みと思い①:高度専門職 意見交換会</p> <p>第12回 私のキャリア開発の歩みと思い②:海外で活躍している人 意見交換会</p> <p>第13回 私のキャリア開発の歩みと思い③:地域に貢献する活動をしている人 意見交換会</p> <p>第14回 先輩たちのキャリア開発の語りを傾聴した成果のまとめ(グループワーク)</p> <p>第15回 全体討論:私(学生)のキャリア開発の展望</p> <p>第16回 全学修過程の総括</p>								
授業 復 習 予 習 ・	<p>毎回の授業内容の振り返り、整理・まとめを確実に行ってください。</p> <p>看護職としてのキャリア開発のための制度や資源について探求したことを整理し、ゲストスピーカーのキャリア開発に関する語りを積極的に傾聴し、疑問点は質問するなどして具体的に理解して、検討できるようにしてください。</p>								
使用 と 教材 な	配布資料以外に、文献を紹介します。								
評価方法	設定した授業の到達目標※	1	2	3	4	5	6	評価割合 %	
定期試験									
小テスト									
レポート	○	○	○	○	○	○	○	60	
グループ学習への取り組み		○	○				○	20	
全体討議への参加姿勢		○	○					10	
授業への参加度		○	○					10	
その他()									
履 修 時 間 の 外 留 の 意 対 事 応 項	<p>・自身の卒業後のキャリア開発について多角的に検討できる貴重な機会ですので、積極的に取り組み、有意義な時間にできるようにしてください。</p> <p>・また、多くの先輩方にきていただき、お話を聴きするので、自身の言動が他者に与える影響を考慮し、敬意を行動を通して表現できるように心がけて下さい。</p> <p>・授業回数の3分の2以上の出席をしていない者には、レポート提出資格は認めません。欠席届の提出により正当な理由がある場合には、考慮することもあります。</p> <p>* 上記の授業計画は、受講者の理解度に応じて適宜変更することがあります</p>								
前年度の授業評価									
前年度のFD(授業改善)授業の取り組み状況			期末授業アンケート			公開授業			
令和8年度開講									